週間天気予報解説資料

2026年11月5日10時00分発表
気象庁

予報期間　11月6日から11月12日まで

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

・台風第31号については最新の台風予報を参照。
・8日は、低気圧が発達しながらオホーツク海からカムチャツカの東へ進み、高気圧が沿海州付近から日本の東へ張り出す。
・9日から10日は、気圧の谷が日本の東から日本のはるか東へ進み、高気圧が華北から黄海付近へ移動し、日本海付近へ張り出す。
・11日から12日は、低気圧がオホーツク海から千島近海へ進み、高気圧が朝鮮半島付近へ移動して本州付近へ張り出す。

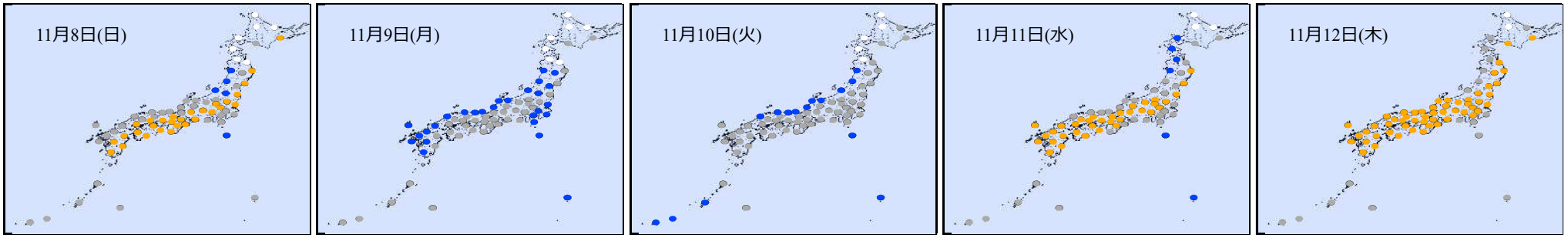
＜防災事項＞　11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

・8日にかけては、発達する低気圧の影響で北日本では大しけとなり、低気圧の発達の程度等によっては、大荒れや警報級の大雪となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

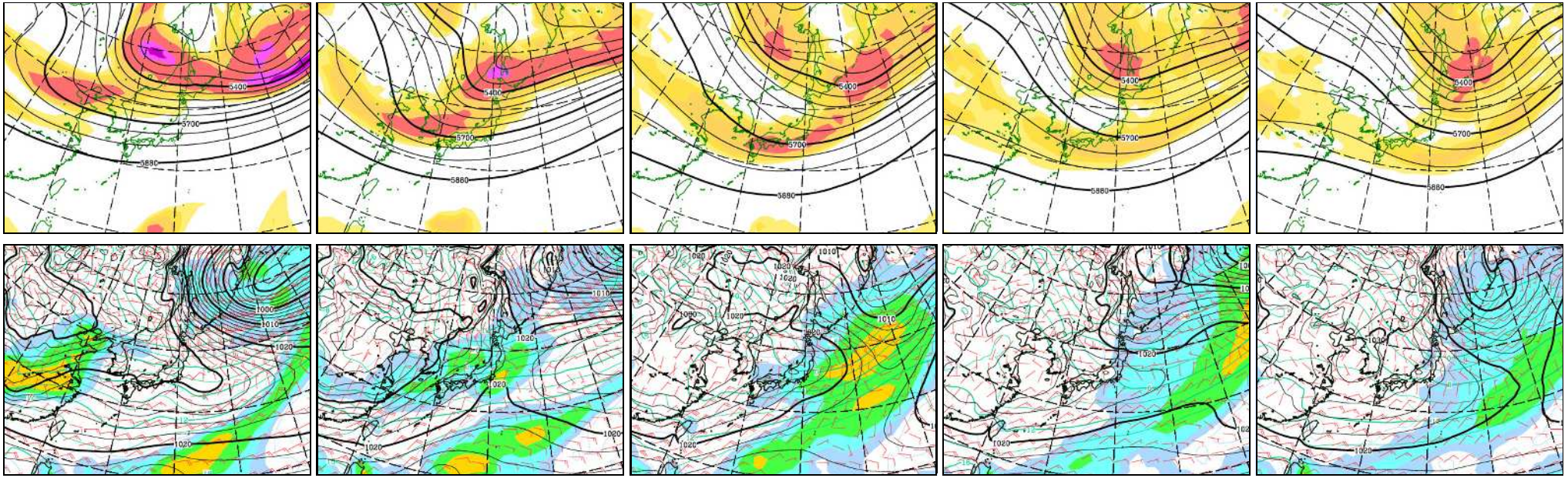
◆10時時点の３～７日目の天気予報案　(11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



・北日本は曇りや雪または雨の降る日が多いが、8日と11日、12日は晴れる所がある。
・東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、11日と12日は晴れる所がある。
・東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りや晴れの日が多いが、9日から11日にかけては雨の降る所がある。
・沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

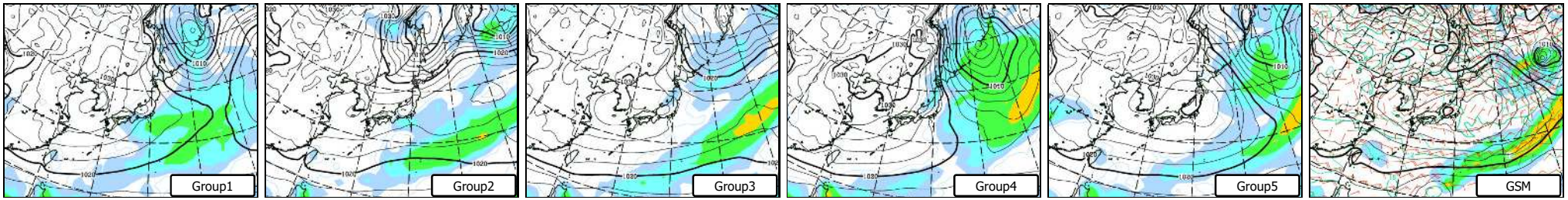
◆アンサンブル(ENS)平均予想図　上図：500hPa高度線、渦度　下図：海面気圧、地上風、850hPa気温、前24時間降水量(21時)

11月8日(日)　11月9日(月)　11月10日(火)　11月11日(水)　11月12日(木)



渦度(10^{-6}/sec以上)　0　10　20　40　80　100　風速　10KT　50KT　降水量(mm/24hours以上)　2　4　8　16　32　64

◆11月12日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSM予想図　海面気圧、地上風及び850hPa気温(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



風速　10KT　50KT　降水量(mm/24hours以上)　2　4　8　16　32　64

◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

・最新のアンサンブル資料（ENS）は、9日から10日にかけて日本海から日本の東に進むトラフが浅くなった。11日に沿海州に進むトラフが深くなった。地上は、9日に日本の東に進む気圧の谷が浅く、遅くなった。10日から11日に朝鮮半島に移動し本州付近に張り出す高気圧が弱くなった。
・スプレッドは昨日よりも上昇した日が多い。
・6日目以降、日本付近へ張り出す高気圧の表現はモデル間でばらつきがあり、ECMは日本の東から日本のはるか東に移動して本州付近に張り出す。ENSのメンバーにはECMに近いものも含まれる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

・予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。